

葛飾区議会議員

うてな ひであき  
**基 英明**



うてな 英明 プロフィール

- 昭和53年(1978年)5月生まれ
- 葛飾区立南綾瀬小学校 卒業
- 株式会社ぎょうせい(出版社) 入社 教育図書担当に配属
- 株式会社 日本教育新聞社に転職 (教育の専門新聞社で勤務)
- 民主党・衆議院議員 武正公一(現・外務副大臣)秘書
- 平成21年度葛飾区議会議員選挙において2,561票を獲得、初当選
- 現在、葛飾区議会議員として、建設環境委員会(常任委員会)、都市基盤整備特別委員会(特別委員会)に所属

葛飾区議会議員 うてな 英明 区政レポート

◆◆平成21年 第4回定例会 一般質問(12月4日)◆◆



「特別支援教育」について

世田谷区では、発達障害支援体制整備事業ということで「子ども部」として、保育課・児童課・要支援児童担当課・子ども家庭支援課を一括して取り扱い、幼児期からの教育・放課後対策・自立への就労支援や社会参加など、全てのライフステージにおいてトータル的に一貫した支援態勢に取り組んでいます。葛飾区として、この支援態勢の導入に対して見解は?

回答

葛飾区では、医療機関や保健所、療育機関、幼稚園、保育所、児童館、子ども家庭支援センター、区立学校、特別支援学校、教育委員会の就学相談担当や特別支援教育担当などから成る地域療育システム検討会を設置し、発達に課題のあるお子さんが地域の中で充実した療育や教育を総合的に受けられるように、支援できる体制づくりに取り組んでいるところです。今後とも、引き続き、関係機関の連携を強化し、障害のあるお子さんを総合的に支援していく体制の整備に努めてまいります。

「理科離れ対策」について

理科大が誘致されることを見込んで、例えば、わくわくチャレンジ広場との連携を提言いたします。理科大の教員志望の学生に児童生徒の目の前で実験を行ってもらうなど、理科に親しむために区として取り組めることがあると考えるが、見解は?

回答

理科や科学好きの子供を育てるために、科学教育センターにおける科学教室や親子科学教室を開催しております。そして、ものづくりに対する興味・関心を高めるために、地域産業関係者との連携を図り、仕事場の見学や製品に触れるなどの体験の機会をつくっています。わくわくチャレンジ広場事業の東京理科大学との連携につきましては、学生ボランティアや学習のアドバイザーとして参加いただくことは、子供たちの学習意欲や興味・関心を高めるという点で効果的な方策である。

「学校図書館」について

学校図書館の一元管理を行うために、学校・指導室・学務課・公共図書館・地域教育課・読み聞かせや図書館整備等に携わるボランティアなど、関係各団体のコーディネートをするための窓口の設置が必要になると考えますが、見解は?

回答

学校図書館の充実を図るためには、ハード面では、図書館運営のための機器類等の備品や消耗品類の整備が必要であり、また、ソフト面では、学校の教諭、図書館支援指導員、ボランティアの人たちが互いに連携し合って図書館運営ができる環境づくりが必要となります。そして、これらの仕事を支えるためには、お話にありましたように、指導室、学務課、公共図書館、地域教育課など、教育委員会のそれぞれの担当部署が連携を取り合いながら進めることが大切であります。教育委員会といたしましては、今後とも、子供たちが読書により言葉を学び、読解力と思考力を身につけ、豊かな感性をはぐくめるよう、読書環境の整備に力を入れてまいります。







「不登校への対策」について

全国の小中高あわせておよそ18万人、区内の小学校40人・中学校233人といわれる不登校について、適応指導教室の状況や個別の支援体制やスクールカウンセラーの活用・民間施設との連携・学習の保障をどのように行っていくのかなど、区としての現状認識及び課題、対策の実績・評価方法等の見解は？

**回答** スクールカウンセラーの配置・校内体制の整備・適応指導教室と相談部との連携のあり方や活用方法など検討している。

「給食費の悪意ある滞納者対策」について

全国で約10万人と言われる給食費の滞納者について、就学支援のさらなる周知徹底とともに、悪質な滞納者に対する法的な拘束力も含めた「強制力」をどうするのか、区としての現状認識及び課題、対策の実績等の見解は？

**回答** 現在、23区の学務課長会で方策を検討している。また、先進的に取り組んでいる自治体の例も参考にしながら、法的措置を視野に入れた検討をしていく。

「教員の事務作業の負担軽減」について

教員の事務作業及び多忙化について、ICT等の導入に合わせて、教員への研修等も同時並行で行っていくべきであると考えとともに、事務作業の見直しを図るべきと考えるが、区としての現状認識及び課題等の見解は？

**回答** ICT機器の導入とともに教員のICT活用能力の向上を図る。事務作業の最適化を図り、教員の負担軽減につなげる。

「学校図書館の既存システムとICTの連携」について

学校情報センターとして活用していくという「教育振興ビジョン」の考えに則り、ICT導入に合わせて既設の学校図書館のシステムの接続・活用が必要になると思われるが、区としての現状認識及び課題等の見解は？

**回答** 学校図書館の更なる充実に向けて、既存の学校図書館システムとの接続や有効に活用していく方策について検討する。

「堀切地区のまちづくり」について

堀切地区は、東京都防災都市づくり推進計画でも整備地区に指定されています。いつ災害が起こるか分からない防災という視点から早期に取り掛かる必要性があると考え、区としての現状認識及び課題等の見解は？

**回答** 『地域住民が作った「堀切地区まちづくり検討協議会・勉強会」の成果である「堀切地区まちづくり構想」に基づいて、取りかかれる事は平成22年度より着手する予定』『堀切地区の防災性の向上は喫緊の課題区の中でも重点的に街づくりに取り組んでいかなければならない地区の一つであると認識している』『堀切地区をできるだけ早期に災害による被害を受けにくく、安全・安心に住み続けられる街づくりを進める』との回答をいただきました。今後も引き続き、こういった質問も行い、区民生活の向上に取り組んでいきます。

◇政策協定(1月21日)

民主党葛飾と青木克徳区長との政策協定の調印式を行いました。先般、青木区長から、我々・民主党葛飾に対して、区政運営への協力要請があったためです。ご存知のとおり、民主党は区長選挙で独自候補を立て惨敗を喫しました。区民の皆様の民意がなかったことを真摯に反省し、区民の負託を受けた現・青木区長に対して、政策を軸に対応していく考えであります。そこで、協力するための条件として、「政策で合意できるのであれば」と考え、民主党葛飾としての重点政策を提示したところ、大筋で一致との見解が出されたため、今般の政策協定に至りました。もちろん、我々のスタンスは『是々非々』であり、区民生活にとって良いものには賛成、悪いものには反対という考えは区長に伝えた上での合意です。今後も、区民生活を基本観点とする政策を軸に議会活動を行っていきますので、今回の政策協定は大きな一歩であったと考え、皆様に報告をさせていただきます。



◇学童保育クラブ・保育園・公設民営移行現場視察(2月16日)

保育園の視察に民主党葛飾総出で行ってきました。風の子学童保育クラブ・中青戸学童保育クラブ・子育てひろば「けやき」・青戸モモ保育園・中青戸保育園と色々な形態を見てきました。特に、中青戸保育園は、『公設民営』を平成22年度からスタートさせます。この保育園には、病後時保育があり、病み上がりの子どもを預かってくれます。しかも、登録しておけば、葛飾区民であれば誰でも利用することができるのです。こうしたサービスはもっと拡大して行って、両親が安心して仕事に専念できるようにしていきたいと思っております。

